令和６年度　学位論文に係る評価基準

研究科		評価基準
文学研究科	修士課程	文学研究科の修士論文は、下記９つの観点から評価されます。この基準の他、各専攻で独自に設定する観点およびその内容は当該専攻が定めています。 1. 先行研究 　当該分野における必要十分な先行研究を検討し、整理して説明できていること。 2. 問題設定および研究設問の設定 　先行研究を踏まえて、明確で意義のある問題設定または研究設問の設定をしていること。 3. 考察・主張・示唆 　先行研究を分析したり、何らかの調査を行ったりするなど、適切な分析や考察を行い、主張や示唆を導き出すこと。 4. 客観性や根拠 　論文の客観性を高めるために、先行研究を分析した上で資料やデータを用いたり、自らのリサーチ結果から根拠を導き出していること。 5. 論理展開 　論文全体に論理的連関が欠けていないこと。また、論文としての書式が保たれていること。 6. 論述の明晰さ 　読み手を意識して、適切な用語や表現を用いて、分かりやすい文章になっていること。 7. 引用文献、参考文献 　引用文献、参考文献が適切かつ統一した方法で明示されていること。 8. 研究能力 　当該分野の諸問題について、専門知識に基づいて分析し、その問題に対する解決策を提示すること。 9. 論文発表審査会での発表 　学術論文の発表としての適切な手順を用いていること。また、聴衆を配慮した分かりやすい発表になっていること。
農学研究科	修士課程	農学研究科における修士論文については、下記の５つの観点から評価されます。 1. 課題設定 　当該分野における先行研究を整理し、それをふまえた適切な課題設定が行われていること。それらが論理立った記述で説明されていること。 2. 解決手段 　設定された課題に必要な解決手段、実験手法が具体的に記述されていること。 3. 結果 　課題解決のために行われた調査、実験の結果が適切に記載されていること。図表などのデータの記載方法が適切であること。 4. 考察 　結果に関わる考察が筋道だって適切に記載されていること。既往研究成果を参照しながら適切で論理的な説明がなされていること。 5. 研究倫理

研究科		評価基準
		修士論文の研究内容が、研究倫理に反しない正当な手段で得られた成果に基づいていること。また、修士論文作成の初期段階において、日本学術振興会が推奨する研究倫理ｅラーニングコース（eL CoRE）を受講し、修了していること。
	博士課程後期	農学研究科における博士論文については、修士論文の５つの評価項目に加え、下記の２点を観点にして評価されます。 1.新規性、進歩性 農学的な観点から、修士論文よりも高い新規性や進歩性を備えた内容となっていること。それらについて課題設定や考察に明確な記載があること。 2.研究結果や論理性の充実度 修士論文に比較してさらに高いレベルで充実した研究結果が備わっており、それを論理性の高い記述で説明されていること。
工学研究科	修士課程	工学研究科における修士論文は、下記の８つの観点から評価されます。 1.先行研究 当該分野における基本的な先行研究を整理して説明していること。 2.問題設定 明確な問題設定をしていること。 3.手段 実験、シミュレーションあるいは数理解析など、問題解決に向けて用いた手段についての実施条件、器具、手順等が十分に説明されていること。 4.進歩性・新規性 修士論文の内容が、先行研究に基づく科学的知見の理解の向上に資すること、従来技術を改善していること、若しくはそれらに準じる科学的あるいは工学的進歩をもたらすこと。 5.記述 各文が、適切な語句を正しく用いて、簡潔に記述されていること。 6.論理構成 論文全体が、適切な前提条件の下、正しい推論を経て、結論へと導かれていること。 7.参考文献 参考文献リストが付されていること。本文中で引用箇所が明示されていること。 8.研究倫理 修士論文の内容が、不正行為のない研究活動によって得られた成果に基づいていること。
	博士課程後期	工学研究科における博士論文は、下記の８つの観点から評価されます。 1.先行研究 当該分野の先行研究に対する十分な検討が行われていること。さらにそれら先行研究を公正な評価に基づいて整理して説明できていること。 2.問題設定 明確な問題設定をしていること。さらにその問題を議論すること、あるいは解決することの科学的若しくは工学的意義を説明できていること。 3.手段 実験、シミュレーションあるいは数理解析など、問題解決に向けて用いた手段についての実施条件、器具、手順等が、公正な第三者による再現若しくは検証が

研究科		評価基準
		可能と見込める程度にまで説明されていること。 4. 進歩性・新規性 　博士論文の内容が、当該分野の発展に対して科学的あるいは工学的に価値ある貢献となるような、新規の成果を含んでいること。 5. 記述 　各文が適切な語句を正しく用いて、簡潔に記述されていること。さらに各文章の意味が明瞭であること。 6. 論理構成 　論文全体が、適切な前提条件の下、正しい推論を経て、結論へと導かれていること。さらに論理構成を反映した適切な章立てがなされていること。 7. 参考文献 　当該分野の標準的な形式で参考文献リストが付されていること。本文中で引用箇所が明示されていること。 8. 研究倫理 　博士論文の内容が、不正行為のない研究活動によって得られた成果に基づいていること。
マネジメント研究科	修士課程	マネジメント研究科における修士論文は下記の 6 つの観点から評価を行う。 1. テーマ設定 　先行研究や現状把握に基いた適切なテーマ設定がなされていること。 2. 先行研究の調査および現状把握 　テーマに対する基本的な先行研究を調査し，その内容を整理して説明していること。また，現状把握について適切なデータ等を用いて分析がなされていること。 3. 研究方法 　結論を導くための適切なアプローチ・手順が説明されていること。 4. 内容 　文献やデータの分析に基づき，論理的に整合性をもった内容であり，修士論文における主張を裏付けるための適切な文献やデータが用いられていること。 5. 論述の仕方と論理構成 　文章が適切な語句を用いて明瞭な文章で記述されていること。また，結論を導くに至る全体が論理的に構成されていること。 6. 引用文献・参考文献，研究倫理 　引用文献・参考文献が不正行為なく示され，自分の意見と他人の意見が区別されていること。 　なお，修士論文の中間発表と最終審査でプレゼンテーションを行うこと。最終審査については，研究科会での審議を経て合格の判定を受けること。
		マネジメント研究科における課題研究報告書は下記の 6 つの観点から評価を行う。 1. 課題設定 　研究課題が主観に大きく偏って設定されたものでなく，先行研究や現状把握のデータに基づいて明確に示されていること。さらに，課題を解決するために提案する解決策や主張の範囲が示されていること。 2. 先行研究の調査および現状把握 　課題に関連する基本的な先行研究を調査し，その内容を整理して説明していること。また，現状把握について適切なデータ等を用いて分析がなされていること

研究科		評価基準
		と。 3. 研究方法 　結論を導くための適切なアプローチ・手順が示されていること。 4. 内容 　文献やデータの分析に基づき, 論理的に整合性をもった内容であり, 設定された課題に対する解決策または主張が示されていること。 5. 論述の仕方と論理構成 　文章が適切な語句を用いて明瞭な文章で記述されていること。また, 報告書が学術的な記述方法で適切に記述されていること。 6. 引用文献・参考文献, 研究倫理 　引用文献・参考文献が不正行為なく示され, 研究倫理に対して適切に対応していること。 　なお, 課題研究報告書に関する中間発表と最終審査でプレゼンテーションを行うこと。最終審査については, 研究科会での審議を経て合格の判定を受けること。
教育学研究科	修士課程	教育学研究科における「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー)」に則り、次の 8 つの事項を審査項目に挙げ、全てを満たしているかどうかを判定します。 1. 知識・理解 　選択したテーマと研究課題についての知識と理解を示している。 2. 論理性・一貫性 　目的、問い、結論の流れが妥当であり、課題が一貫性をもって設定できている。 3. 研究手法 　研究課題に関して関連性と妥当性の高い研究手法についての知識を持っている。 4. 表現力 　学術的に適切な形式で表現されているとともに、論文発表会では聴き手にわかりやすく伝えることができている。 5. 主体性 　自ら研究を計画し、時間を管理しながら取り組んだ成果が示されている。 6. 思考力・創造性 　論文のテーマの背景を理解し、論拠を示して独自に考察している。 7. 倫理性 　玉川大学研究倫理規程に沿った論文である。 8. 有用性 　研究成果が社会的に役立つ可能性を述べている。 なお、修士論文審査結果については、主査・副査による判定を元に、研究科会の審議を経て最終的に決定する。

研究科		評価基準
脳科学研究科	修士課程	脳科学研究科における「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に則り、下記の 9 つの事項を審査項目に挙げ、全てを満たしているかどうかを判定します。 1. 学位規程に対する適合性 　玉川大学学位規程の学位授与要件に適合していること。 2. 倫理性 　研究倫理に則って適切に研究の遂行と論文の執筆をしていること。 3. 主体性 　学位申請者が主体的に取り組んだ研究の成果を学位論文として提出していること。 4. 研究目的の適切性 　脳科学関連分野における学術的・社会的背景のもとに適切な研究目的を設定していること。 5. 学術的位置付けの明示 　学位論文に関連する先行研究を把握して適切に引用した上で、自ら実施した内容の学術的位置付けを明示していること。 6. 研究方法の妥当性 　研究目的に適った研究方法を用いており、その方法を具体的に明示していること。 7. 結論の妥当性 　客観的な証拠にもとづいて論証し、研究目的に対応した結論を導出していること。 8. 学位種別への適合性 　「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた学位の種別（学術または工学）ごとに定めた授与方針に適合していること。 9. 内容の理解 　学位論文、および関連する先行研究の内容を的確に理解し、関連する質疑に対して論理的に応答できること。 修士論文提出予定の各学生に対し、脳科学研究科修士課程において研究指導資格を持つ２名以上の教員（当該学生の指導担当教員を除く）を審査委員として選定します。審査委員は、2 年次の中間発表、および修士論文の仮提出を通じて、上記の項目を満たすように適切な助言をします。正式に提出された修士論文と発表審査会によって、審査委員は上記の項目を全て満たすかどうか判定します。その内容を研究科で審議した上で、最終判定を行います。
	博士課程後期	脳科学研究科における「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に則り、下記の 11 の事項を審査項目に挙げ、全てを満たしているかどうかを判定します。 1. 学位規程に対する適合性 　玉川大学学位規程の学位授与要件に適合していること。

研究科		評価基準
		2. 倫理性 　研究倫理に則って適切に研究の遂行と論文の執筆をしていること。 3. 主体性 　学位申請者が主体的に取り組んだ研究の成果を学位論文として提出していること。 4. 研究目的の適切性 　脳科学関連分野における学術的・社会的背景のもとに適切な研究目的を設定していること。 5. 学術的位置付けの明示 　学位論文に関連する先行研究を把握して適切に引用した上で、自ら実施した内容の学術的位置付けを明示していること。 6. 研究方法の妥当性 　研究目的に適った研究方法を用いており、その方法を具体的に明示していること。 7. 結論の妥当性 　客観的な証拠にもとづいて論証し、研究目的に対応した結論を導出していること。 8. 学位種別への適合性 　「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた学位の種別（学術または工学）ごとに定めた授与方針に適合していること。 9. 内容の理解 　学位論文、および関連する先行研究の内容を的確に理解し、関連する質疑に対して論理的に応答できること。 10. 学術的・社会的意義 　学位論文の成果が新規性をもち、学術的もしくは社会的な意義をもつこと。 11. 論文公表能力 　脳科学関連分野において自立して研究を遂行し、学術論文として公表する能力を有することを、学位論文、および公表論文で示していること。 博士論文提出予定の各学生に対し、３名以上の審査委員からなる審査委員会を置きます。脳科学研究科博士課程後期において研究指導資格を持つ教員（当該学生の指導担当教員、及び博士論文に関わる公表論文の共著者を除く）から２名以上の審査委員を選定します。さらに、原則として外部の専門家１名以上を審査委員として選定します。審査委員会は、予備審査会、および博士論文の仮提出を通じて、上記の項目を満たすように適切な助言をします。正式に提出された博士論文と発表審査会によって、審査委員会は上記の項目を全て満たすかどうか判定します。その内容を研究科で審議した上で、最終判定を行います。

教職大学院　学校課題研究評価基準

〔評価体制〕

・「学校課題研究」は授業単位として行われるため、授業の担当者２名（主査・副査）が評価原案を作成する。
・評価は通常の授業評価と同様に行う。S・A・B・C 評価により単位として認定される。
・評価原案を教務担当がとりまとめ、教職大学院会に諮り、教職大学院会および教職大学院科長の了承を得て、評価結果を成績として事務に報告する。

〔評価項目〕

・現実の教育課題に対応し、学校または教育文化の改善・発展に資する内容であること。
・研究テーマが教職修士の学位に対して妥当なものであり、論文作成にあたっての問題意識が明確であること。
・当該研究領域における最新の関連諸研究が十分踏まえられており、研究課題を適確に把握していること。
・適切な研究方法、調査･実験方法、あるいは論証方法により、具体的な分析・考察がなされていること。
・論文の記述が十分かつ適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっていること。
・学校課題研究の指定された時数の指導を受けていること。時数には、学校課題研究テーマ設定プレゼン、中間発表会、最終発表会が含まれる。

〔審査基準〕

授業担当者は、授業内外での課題への取組など、指導の過程における評価を含め、上記の評価項目に照らし、総合的な成績評価を行う。